

NTT 災害用伝言ダイヤル「171」について

●提供開始

震度6弱以上の地震発生時、及び地震・噴火等の発生により、被災地へ向う安否確認のための通話等が増加し、被災地へ向けての通話がつながりにくい状況になった場合、NTT側で速やかに利用可能とします。

●伝言録音時間・伝言保存期間・伝言蓄積数

- 伝言録音時間…1 伝言あたり 30 秒以内
- 伝言保存期間…録音してから2日 (48時間)
- 伝言蓄積数……1 電話番号あたり1～10 伝言 (提供時にお知らせいたします。)

●ご利用料金

伝言の録音・再生時の通話料のみ必要です。(伝言蓄積等のセンタ利用料は無料)

***被災地に設置する特設公衆電話及び被災地内の公衆電話を無料化した時には、公衆電話からのご利用は無料となります。**

●利用方法

伝言の録音

「171」をダイヤル → ①を選択 → 被災地の方の電話番号をダイヤル

伝言の再生

「171」をダイヤル → ②を選択 → 被災地の方の電話番号をダイヤル

東日本大震災の時に支給された食品

食品名 (g)	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	カリウム (mg)	水分 (ml)	食塩 (g)
おにぎり1個 (120)	179	3.1	32	78	1～1.5
アンパン1個 (80)	213	4.9	44	28	0.2
クリームパン1個 (75)	206	4.4	53	27	0.3
ジャムパン1個 (75)	210	3.2	41	24	0.3
牛乳1本 (200)	120	5.8	300	177	
野菜ジュース1缶 (190)	40	1.3	475	177	
副菜	659	20.1	364	239	6.3
餅弁当	401	21.1	613	323	4.3
唐揚げ弁当	862	37.4	496	320	4.3

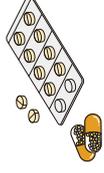
厚生労働省「東日本大震災の対応状況(栄養・食生活支援)」等について(参照)

●東日本大震災時の状況

震災後、避難所では菓子類が豊富で制限なく食べられました。また、全体的に野菜が少なく、肉・魚・卵・牛乳等のたんぱく源も少ない反面、炭水化物中心の食事が長期間続き、栄養バランスに配慮した食材の調達が行われにくいという環境にありました。

●避難所生活での食事について

- エネルギー
エネルギー過剰については、震災後一週間以内はあまり影響が少ないです。それより、震災時のエネルギー不足により栄養障害にならないよう、注意が必要です。
- 蛋白質
透析不足の場合は蛋白質制限が重要になりますが、震災時の一週間以内の摂取量を考えると蛋白質は多くなるケースは少ないと考えられます。
- 塩分
支給される前の家にある保存食品には塩分が多いので、一週間以内であれば減塩は意識しておく必要があります。
- 内服薬について
薬によっては禁忌の飲食物があるので注意しましょう。
例：ワーファリン+ 納豆、 鉄剤+お茶



非常時、マヨネーズは腹膜透析患者さんの栄養源になります。

●日常の処方

処方内容	
液の種類	容量 (mL)
360・400 N・NL	1,000・1,500・2,000・2,500・3,000
お腹のチューブ ZERO SYSTEM®・HOTNAVI®	
H D 併用	あり・なし
シヤント	あり・なし (ありの場合：右・左)

APD 治療内容

療法	NPD・CCPD・CCPD+マニユアル TD・TD+マニユアル
注液量	mL
サイクル数	回
貯留時間	分

患者情報

病名・合併症	
アレルギー	
禁忌薬剤	
感染症	HBV 抗原 (+・-) HCV 抗体 (+・-)
	HBV 抗体 (+・-) W 氏 (+・-)
	H I V (+・-) 梅毒 (+・-)
内服薬	